

生物多様性保護に関する環境意識の向上における 自然保護の正当化および代表種戦略

リリヤ ミハイロバ

キーワード：代表種アプローチ、生態系アプローチ、二次的自然

1. イントロダクション

地球の最も顕著な特徴は、生命の存在とその多様性である。しかし、20世紀になって、世界は急激な変化を遂げた。生物の多様性が失われつつあるのだ。早急な問題解決が必要であることが明らかになり、そのため、社会に対する明確かつ緊急な情報公開がまさに今なされるべきなのである。

この研究の要は、社会における生態系の保全や絶滅危惧種への関心を誘発することを意図した、可能な保全戦略と手段を探求することである。さらに、社会コミュニティの奥底にある環境意識や保全への参画を促進させるための体系的なアプローチを追求する。

2. 研究方法

本研究は、自然保護の正当化や生物多様性の価値の同定の様々な方法に焦点を当てる。それらは自然保護への異なる誘引となるだろう。自然保護を促進する明確で効率的な環境啓発のための研究において、ここでは、保護的思考の歴史を提示し、さらに「代表種アプローチ」と「生態系アプローチ」という2つの主な保護手段について述べる。日本の2つの地域を取り上げたケーススタディーの背景を分析することで、これらのアプローチの長所と限界を考察する。二次的自然保護プロジェクトに人々の参加を促す動機付けとなるものの好例として、滋賀県竜王町と兵庫県豊岡市を挙げた。

3. 研究結果

代表種・生態系アプローチの分析は、どちらか一方にのみ焦点を当てることは保全の目標全体へはいい影響を及ぼさない。それぞれの特有性を融合させることで最大の効率性を発揮できる。

さらに、この研究は、環境の価値について考えることは、関心を高め、最終的に保全の意思につながるという仮説を支持し、それについてのさらなる説明になる。これらの結果によって、代表種が種の社会経済的・生態的役割を含め、保全の意志や行動を動機付けることが出来るメカニズムの基本的な理解が可能となる。

代表種に関する文献と二つのケーススタディーから、もし、代表種が地域文化と相関性があるなら、すでに埋め込まれた社会経済的価値を象徴していることから、代表種はコミュニティベースの自然保護の中心的役割を担うと結論づけることができる。加えて、代表種の生態的役割に気付くことによって、人々がもつ自然の内在的価値に共鳴し、生態的重要性による魅力はその種がもつカリスマ的魅力を上回ることでさえあるかもしれない。またそれは、生物種、その生息地と人間の幸福との相互関連への理解を生み、行動様式の変化を促進する。結論として、広範な生態的役割をもつ代表種は、代表種アプローチと生態系アプローチ両方の機能を結合させるべきである。